

再 評 価 調 査 書

I 事業概要						
事業名	道路事業					
地区名	一般県道伊古部南栄線 <small>いこべみなみさかえ</small>					
事業箇所	豊橋市伊古部町～若松町 <small>いこべわかまつ</small>					
事業のあらまし	<p>一般県道伊古部南栄線は、国道42号から国道23号豊橋バイパスと交差し、国道259号に至る、豊橋市の南部地域から中心部を結ぶ延長2.6kmの路線である。</p> <p>本路線の沿線では、2004年に国道23号豊橋バイパスの野依ICが開通し、新たに住宅及び工業団地が形成されつつあり、交通量が増加している。また、当該事業区間は通学路に指定されているが、歩道が設置されておらず、歩行者の安全性が確保されていない。</p> <p>このため、「人の交流を支え地域を活性化する基盤整備」、「交通安全対策の強化」を主な目的として、住宅及び工業団地の形成に伴う交通量増加に対応し、歩行者の安全性を確保するため、一般県道伊古部南栄線の現道拡幅整備を実施するものである。</p>					
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>(1) 地域の活性化</p> <p>(2) 交通事故対策</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>					
計画変更の推移		事業採択時 (1997年度)	再評価時 (2016年度)	再評価時(2回目) (2023年度)	変動要因の分析	
	事業期間	1997年度～2019年度	1997年度～2019年度	1997年度～2029年度	用地取得に時間を要したため(+10年)	
	事業費(億円)	10.0	10.0	10.0		
	経費内訳	工事費	4.0	4.0	5.7	土質の確認により、仮設工を新規計上(+1.7億円)
		用補費	5.5	5.5	3.5	用地面積の確定により補償物件が当初想定より減少したため(-2.0億円)
その他		0.5	0.5	0.8	仮設工の設計費を新規計上(+0.3億円)	
事業内容	現道拡幅 延長L=2.6km 幅員W=16m 2車線	現道拡幅 延長L=2.6km 幅員W=16m 2車線	現道拡幅 延長L=2.6km 幅員W=16m 2車線			
II 評価						
①事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	<p>【事業採択時の状況】</p> <p>本路線の一部は近隣の小学校の通学路に指定されているが、歩道が設置されておらず、歩行者の安全が確保されていない。</p> <p>【再評価時の状況】</p> <p>(1) 人の交流を支え地域を活性化する基盤整備</p> <p>2004年に国道23号(豊橋バイパス)の野依ICが供用され、住宅及び工業団地が形成されたため、交通量が4,393台/日、混雑度が0.69(H6道路交通センサス)から、交通量が9,802台/日、混雑度が1.03(H27道路交通センサス)へ増加している。</p>				

		<p>(2) 交通安全対策の強化 通学路に指定されているにもかかわらず、歩道が設置されていないため、歩行者の安全性は依然として確保されていない。 【変動要因の分析】 2012年に国道23号(豊橋バイパス)、2013年に国道23号(豊橋東バイパス)がそれぞれ供用され、事業着手時から交通量が増加しており、歩行者に対する危険性も高まっているので、当該事業区間の整備の必要性は増大している。</p>												
	判定	A	<p>A: 事業着手時に比べ必要性が増大している。 B: 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。 C: 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。</p> <p>【理由】 交通量の増加により歩行者の安全性を確保する必要性が増大している。</p>											
②事業の進捗状況及び見込み	1) 進捗状況	【事業計画及び実績】												
			1997 ~2007	2008 ~2014	2015 ~2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	合計	
		工 種 区 分	調査・設計	←————→					←————→					
			用地補償	←————→					←————→					
			工事	←————→					←————→					
		事業費 (億円)	当初計画	10.0										10.0
			実績	6.1										6.1
			今回計画	6.1			3.9							10.0
		【進捗率】												
				これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況							
		計画 【①】	実績 【②】	達成率(%) 【②÷①】	計画 【③】	進捗率(%) 【②÷③】								
	延長(km)	2.6	2.0	77%	2.6	77%								
	事業費(億円)	10.0	6.1	61%	10.0	61%								
	工事費	4.0	3.3	83%	5.7	58%								
	用補費	5.5	2.4	44%	3.5	69%								
	その他	0.5	0.4	80%	0.8	50%								
	2) 未着手又は長期化の理由	・用地買収に時間を要したため。												
	3) 今後の事業進捗の見込み	<p>【阻害要因】 ・地元自治体より早期整備が要望されており、大きな阻害要因はない。 【今後の見込み】 ・2029年度までに整備が完了する予定である。</p>												
	判定	B	<p>A: 事業は順調であり、計画通り確実な完成が見込まれる。 B: 次のいずれか(該当する項目に「○印」を付ける) ・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込ま</p>											

		<p>れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ○これまで事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 <p>C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p>	
【理由】		<ul style="list-style-type: none"> ・事業期間を延伸したことにより、2029年度までに整備完了が見込まれるため。 	
III 対応方針			
継続	<p>中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。</p>		
IV 再評価実施の有無と主な評価内容			
<p>■対象（事業完了後5年目） □対象外</p> <p>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】</p> <p>—</p> <p>【主な評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通量（全車、大型車）、旅行速度、混雑度、安全性の改善状況 			